



株式会社 ヒラノテクシード

### 新社長ごあいさつ



収益力の向上を  
最優先課題に  
次の成長への基盤を  
築いてまいります。

取締役社長

安居 宗則

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、代表取締役社長に就任いたしました安居宗則です。私は1982年の入社以来、設計と製造の橋渡し役としてキャリアをスタートし、ものづくりの現場から経営に至るまで幅広い分野で業務の経験を積んできました。

現在、当社を取り巻く事業環境は大きく変化しています。EV(電気自動車)市場を中心とした設備投資の停滞に加え、

世界情勢や原材料調達を巡る不透明感も高まっており、決して楽観できる状況ではありません。こうした厳しい局面で社長に就任したことに大きな責任を感じる一方で、私はこの環境変化を、ヒラノテクシード本来の強みを改めて発揮する好機でもあると捉えています。今後、これまで培ってきた技術力と組織力を結集し、収益力の向上と新たな成長機会の創出に取り組むことで、企業価値の向上に全力を尽くしてまいります。

Q 直近の業績についてお知らせください。

A 厳しい事業環境の中でも収益性と財務基盤の強化を進める

2026年3月期は、当社の主要市場である北米においてEV市場の減速が鮮明となり、主要顧客による設備投資計画の見直しや延期が相次ぎました。特にリチウムイオン電池関連分野では受注環境が大きく変化し、当社グループを取り巻く事業環境は厳しいものとなりました。

こうした中、連結売上高は322億85百万円と前期比33.2%の減収となりました。また、EV関連案件の減少に加え、顧客による設備投資計画の見直しにとまない、複数案件で総額72億29百万円のキャンセルが発生しました。他市場での受注拡大も限定的であったことから、受注高は236億5百万円と前期比28.7%減少し、受注残高も316億49百万円となりました。

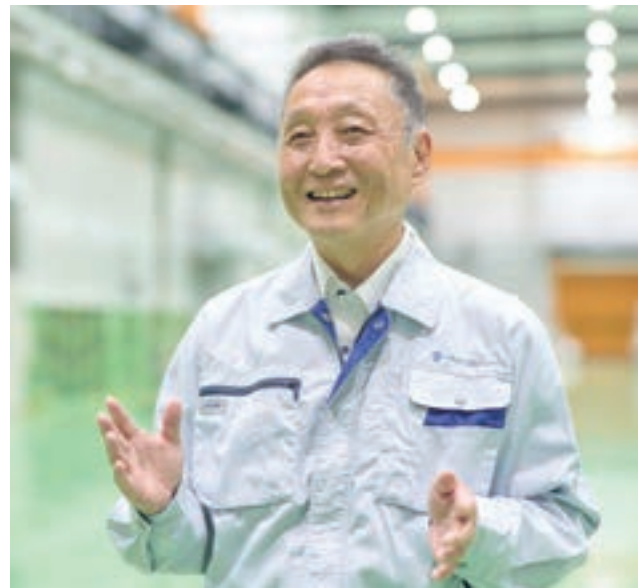
一方で、利益面では収益性を重視した事業運営を進めた結果、営業利益は15億99百万円となり、営業利益率は前期の3.5%から4.9%へ改善しました。また、受注条件の見直しなどを進めたことに加え、前期に計上した貸倒引当金の反動もあり、親会社株主に帰属する当期純利益は13億13百万円と前期比45.0%増となりました。

財務面においても着実な改善が進みました。営業キャッシュ・フローは47億3百万円増加となり、前期の7億24百万円の減少から大幅に改善しました。さらに、自己資本比率は68.2%まで上昇し、財務基盤の強化も進展しています。

Q 業績の回復に向けてどのように考えていますか？

A 原点回帰のもと収益力向上に取り組み

2027年3月期につきましては、連結売上高250億円、営業利益15億円を見込んでいます。EV関連分野を中心に設備投資の慎重な姿勢が続いており、事業環境は引き続き厳しいものになると認識しています。売上高は前期を下回る計画ですが、収益性を重視した事業運営を徹底することで、営業利益率は6.0%を確保する計画です。



私は社長就任にあたり、「原点回帰」を経営の基本方針として掲げました。当社はこれまでリチウムイオン電池関連分野の成長を取り込みながら事業を拡大してきましたが、これに対して今後は、当社が長年培ってきた強みに改めて立ち返し、その価値をさらに高めていきます。特定分野に依存するのではなく、多様な市場のニーズに応える当社本来の姿に立ち返し、事業ポートフォリオのバランスを高めていきます。

当社の強みは、「塗る」「乾燥させる」「制御する」という三つのコア技術を高いレベルで融合できることにあります。薄く均一に塗布し、安定して乾燥させ、高精度で搬送・巻き取りまで行う一連の技術は、長年にわたり培ってきた当社独自の強みです。私は、この技術力こそが厳しい環境を乗り越える最大の原動力になると考えています。

また、収益力向上に向けては、品質改善と業務改革に注力します。近年は大型案件への対応が増える中で、設計変更や品質対応が収益を圧迫するケースもありました。こうした課題を改善するため、3D設計やBOM(部品情報を一元管理する仕組み)の活用を進めるとともに、お客様との仕様確認をより前倒しで行うことで、手戻りの削減や納期短縮につなげていきます。

さらに、技術継承と組織力の強化も重要なテーマです。4月には新たに「匠」という組織を立ち上げ、ベテランから若手までが部門を超えて知識や経験を共有できる体制づくりを進めています。全従業員が一丸となってヒラノテクシードの強みを磨き上げ、収益基盤の強化と持続的な成長につなげてまいります。

Q

中長期における成長に向けた  
取り組みについて教えてください。

A

MLCCとペロブスカイトを軸に  
次の成長への道筋を描く

足元では厳しい事業環境が続いていますが、当社の中長期的な成長機会を決して小さくないと考えています。当社が強みとする塗工技術は、さまざまな先端分野で必要とされており、その可能性は今後さらに広がっていくと見ています。

その中で、特に期待しているのがMLCC(積層セラミックコンデンサ)関連分野です。AIサーバーやデータセンター、自動車の高機能化などを背景に、MLCC市場は今後も成長が見込まれています。当社は長年にわたりMLCC分野で実績を積み重ねてきました。薄く均一な塗布膜を形成する技術力は高く評価されており、足元では国内外で活発な設備投資の動きも見られます。私は、この分野が2028年以降の成長を支える重要な柱になると考えています。

リチウムイオン電池市場についても、中長期的な成長性は変わらないと考えています。市場環境の変化によって一時的な調整局面を迎えていますが、電池そのものの需要がなくなるわけではありませんので、当社としては、引続き対応を怠らない様にします。

また、将来の成長ドライバーとして大きな期待を寄せているのがペロブスカイト太陽電池です。当社は大学との共同研究を進めながら、次世代太陽電池の製造に必要な塗工技術の開発に取り組んでいます。新しい市場が立ち上がる際には、その前段階から製造設備の開発が必要となります。当社は市場の拡大を待つのではなく、世の中より一歩先を見据えながら技術開発を進めています。



ペロブスカイトテスト機

さらに、私たちは今後登場するさまざまな新素材や先端分野にも挑戦していきます。当社のように、塗工から乾燥、搬送・巻き取りまでを一気通貫で手掛けることができるメーカーは決して多くはありません。だからこそ、新たな材料や製造プロセスが生まれた際に、これまで培ってきた技術を応用しながら新市場へ展開することが可能です。今後、大学や研究機関との連携を深めながら、新たな事業機会の創出に取り組んでまいります。



Q

今後の株主還元方針について  
教えてください。

A

収益力向上を通じて  
企業価値の向上を目指す

当社を取り巻く事業環境は引き続き厳しい状況が続くと見ています。しかし私は、こうした局面だからこそ経営の原点に立ち返り、当社の強みを磨き上げ、収益力を高めることで株主の皆様への還元に努める所存です。

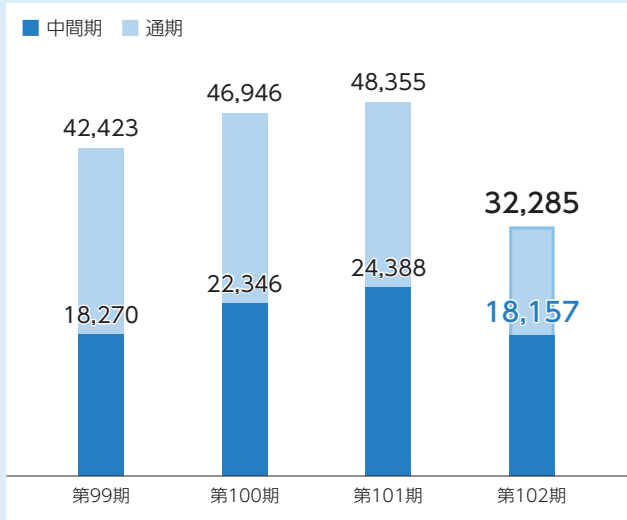
当社は、DOE3.5%または配当性向60%のいずれか高い方を目安とする株主還元方針を掲げています。この方針を維持しながら、安定した利益を創出し、企業価値の向上につなげていくことが経営の重要な責務であると認識しています。

そのためにも、足元の課題に着実に対応するとともに、成長分野への取り組みを進めることで、将来の飛躍に向けた基盤づくりを進めてまいります。当社の技術力と組織力には、大きな可能性があるかと確信しています。全従業員と力を合わせながら、厳しい環境を乗り越え、持続的な成長と企業価値向上の実現に努めてまいります。

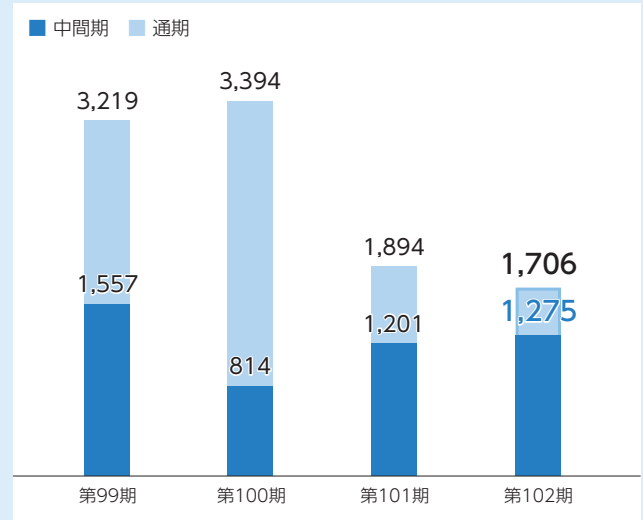
株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 連結業績ハイライト

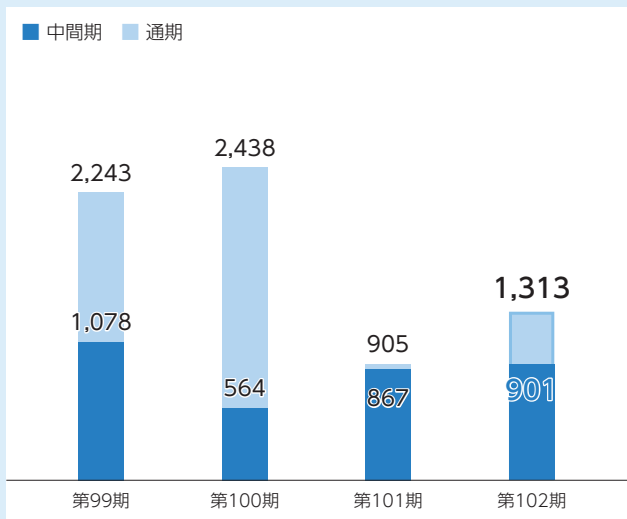
### 売上高(百万円)



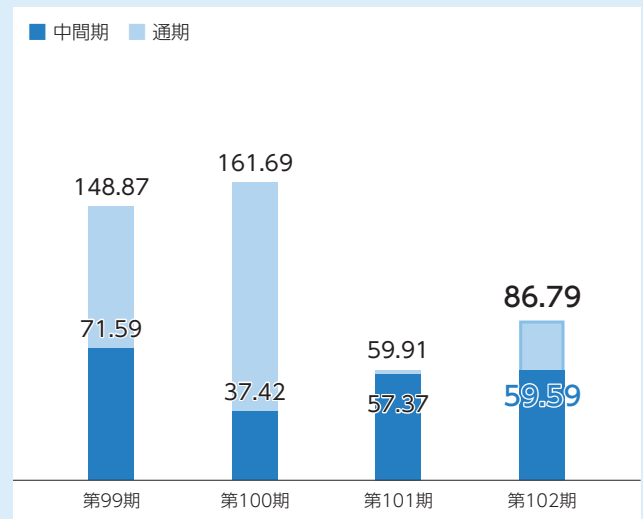
### 経常利益(百万円)



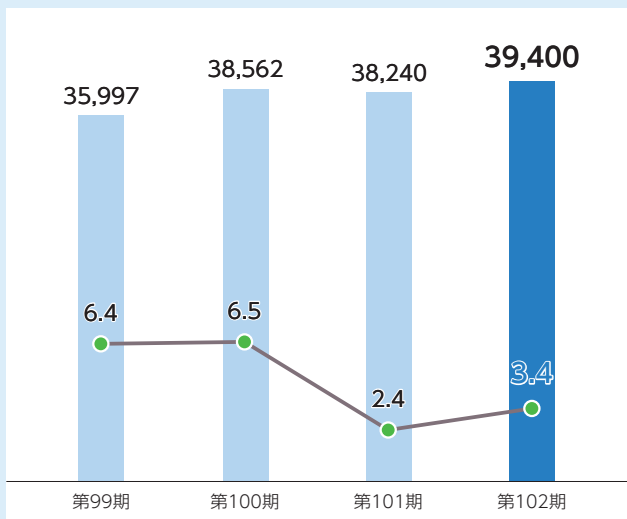
### 親会社株主に帰属する当期(中間)純利益(百万円)



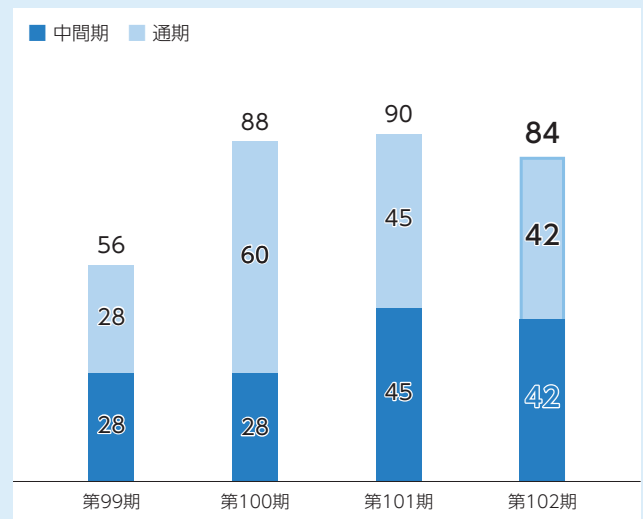
### 1株当たり当期(中間)純利益(百万円)



### 自己資本(百万円) / ROE (●) (%)

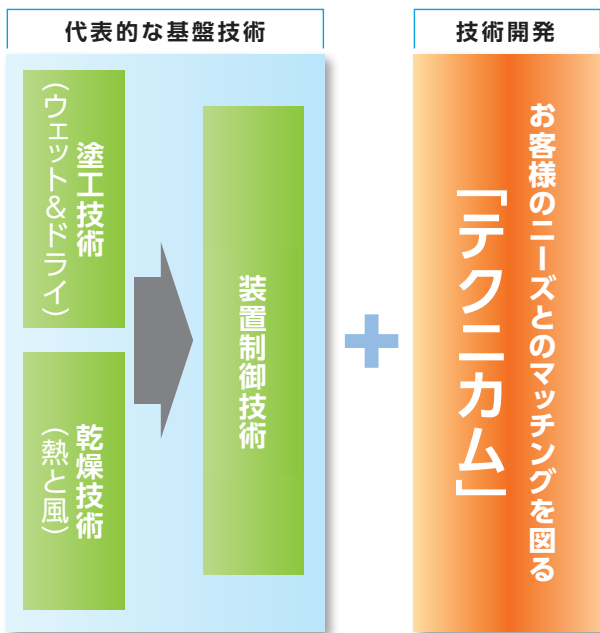


### 1株当たり配当金(円)

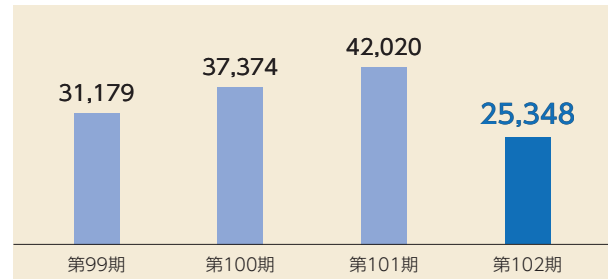


# セグメント別状況

「塗工」「乾燥」「制御」の技術を融合させ、幅広い産業に欠かせない製造装置をお届けしております。

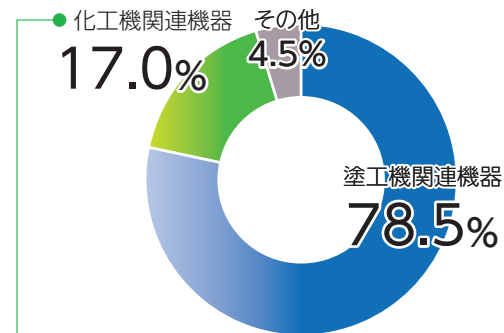


■ 連結売上高 (百万円)



各種コーティング、ラミネーティング装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置

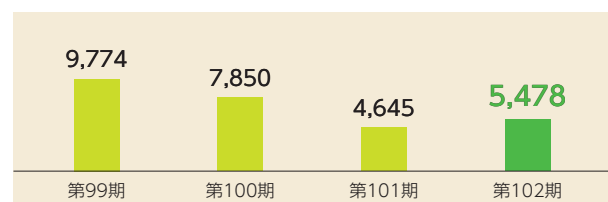
**塗工機  
関連機器**



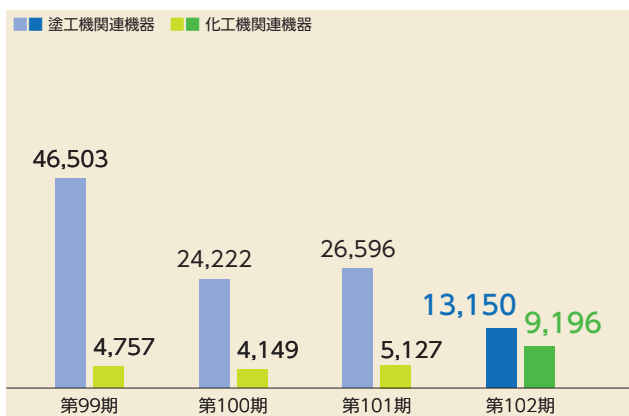
**化工機  
関連機器**

各種成膜装置、不織布・高機能繊維製造装置、フラットパネル塗布乾燥装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置

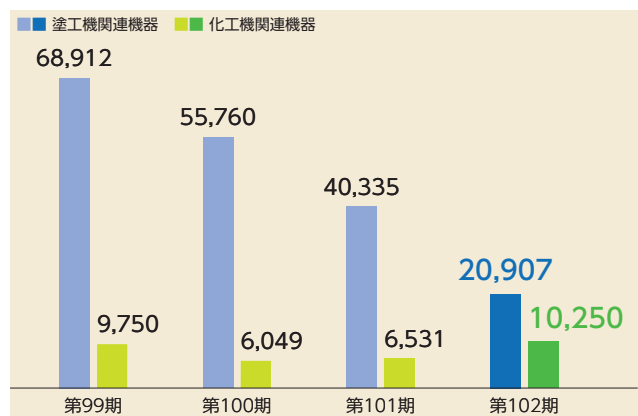
■ 連結売上高 (百万円)



■ 受注高 (百万円)



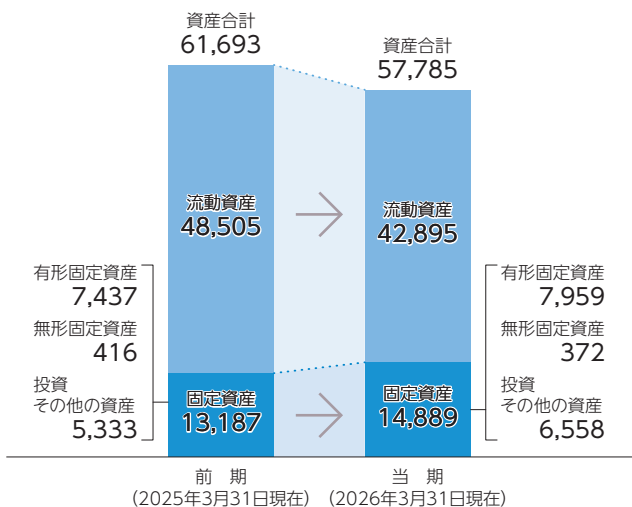
■ 受注残高 (百万円)



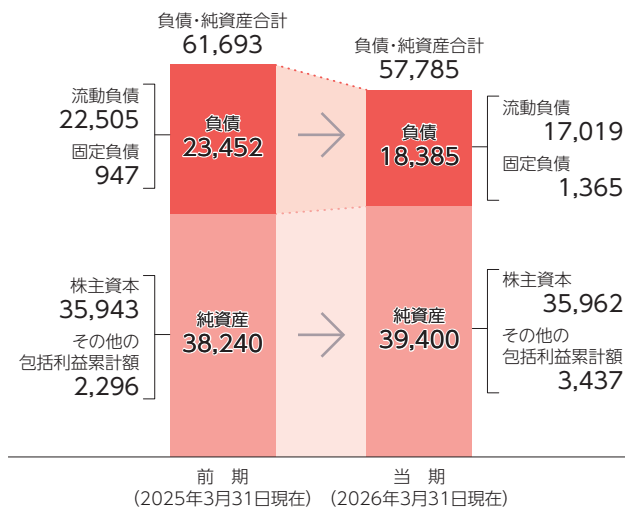
# 連結財務諸表

## 資産の状況(百万円)

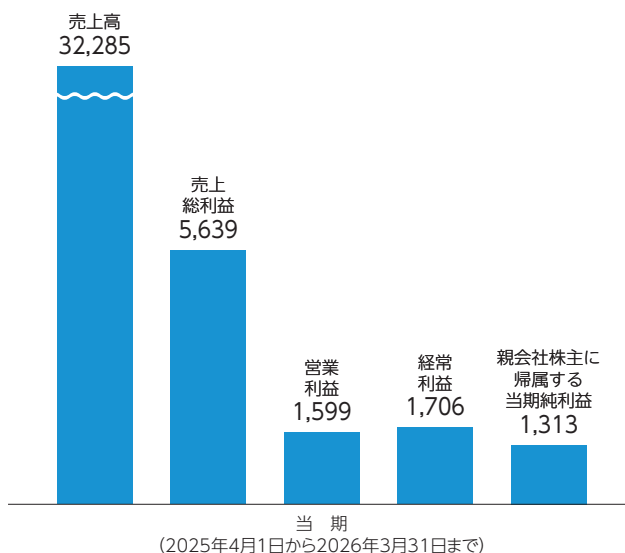
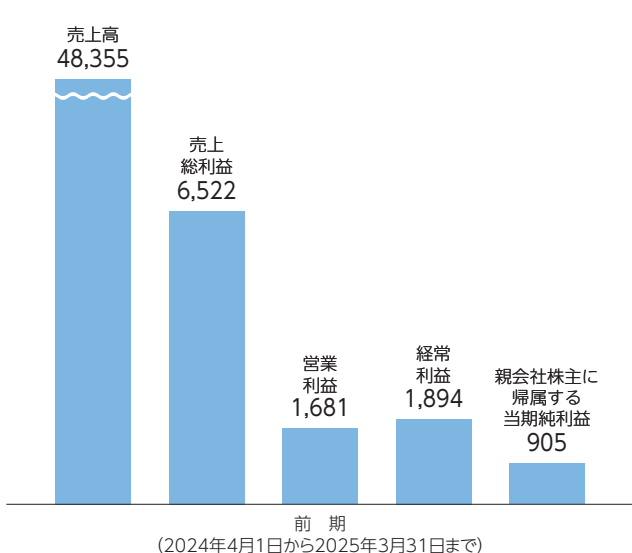
### 資産の部



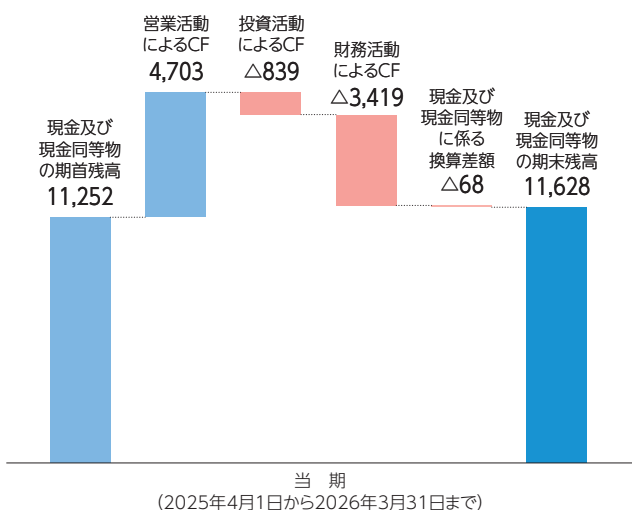
### 負債・純資産の部



## 損益の状況(百万円)



## 連結キャッシュ・フローの状況(百万円)



## 配当のお知らせ

第102期配当金につきましては、1株当たり普通配当42円(中間配当金42円と合わせて、年間配当金は1株当たり84円)とさせていただきます。

# 会社情報 / 株式情報 (2026年3月31日現在)

## ■ 会社の概要

社名	株式会社 <b>ヒラノテクシード</b>
英文社名	<b>HIRANO TECSEED Co.,Ltd.</b>
創業	1935年6月1日
設立	1949年7月25日
資本金	1,847,821,888円
従業員数	315名

本社  
〒636-0051 奈良県北葛城郡河合町大字川合101番地の1

木津川工場  
〒619-0215 京都府木津川市梅美台8丁目1番24

## 事業所

大阪オフィス  
〒545-6024 大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋1丁目1番43号  
(あべのハルカス24階)

東京支店  
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町一丁目16番地  
(ヒューリック神田ビル3F)

## ■ 役員 (2026年6月25日現在)

取締役社長(代表取締役)	安居 宗 則
取締役	原 昌 史
取締役	大 森 克 洋
取締役	鶴 谷 信 佳
社外取締役	藤 本 万 太 郎
社外取締役	小 西 隆 志
社外取締役(監査等委員)	生 方 徹
社外取締役(監査等委員)	大久保 俊 哉
社外取締役(監査等委員)	吉 田 郁 子
社外取締役(監査等委員)	西 田 真 規 子

## ■ 子会社

ヒラノ技工工業株式会社	(産業用機械器具製造)
株式会社ヒラノK&E	(真空装置等製造及び 繊維機械等部品製造)
HIRANO AMERICA, INC.	(メンテナンスサービス及び各種工事)

### ヒラノテクシード ホームページ



<https://www.hirano-tec.co.jp/>

ホームページで当社の事業活動、商品の案内、投資家情報などに関する詳しい情報をご覧いただけます。ぜひご利用ください。

## ■ 株式の状況

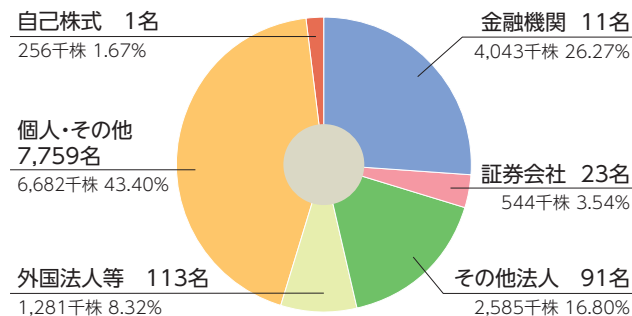
発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	15,394,379株
株主数	7,998名

## 大株主

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数 千株	持株比率 %
①明治安田生命保険相互会社	1,450	9.58
②伊藤忠商事株式会社	1,450	9.58
③ヒラノ会	1,398	9.24
④株式会社三菱UFJ銀行	663	4.38
⑤光通信KK投資事業有限責任組合	633	4.19
⑥株式会社リソナ銀行	584	3.86
⑦株式会社南都銀行	450	2.97
⑧立花証券株式会社	401	2.65
⑨ヒラノテクシード従業員持株会	372	2.46
⑩株式会社紀陽銀行	225	1.49
⑩株式会社三十三銀行	225	1.49

(注) 1. 上記のほか、自己株式256,504株を保有しております。  
2. 持株比率は自己株式数を控除して計算しております。

## ■ 所有者別株式分布状況



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
証券コード	6245
公告掲載方法	電子公告 (https://www.hirano-tec.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告ができない場合は、大阪市 において発行する日本経済新聞に掲載を行います。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問合せ先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 (通話料無料) : 0120-094-777

※株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行のインターネットでも24時間承っております。

<https://www.tr.mufg.jp/daikou/>